

ラグビーW杯3大会出場◆日本人初のプロ

# 鉄人・村田 不惑の引退

日本ラグビー界のプロ化の先駆者で、40歳までトップレベルでプレーを続けた鉄人が、スパイクを脱いだ。ヤマハ発動機の元日本代表S.H.村田互。最後の相手はくしくも古巣の東芝だった。

抜群の速さを武器に91年に日本代表入りし、同年からワールドカップ3大会に連続出場。東芝府中(現東芝)では日本選手権3連覇に貢献した。99年にフランスのバイヨンヌに加入した。東芝を退社し、日本人初のプ

ロ選手になったの海外挑戦。日本協会が代表選手との契約に踏み切った。本でプロ制度が始まる1年半も前のことだった。

2季在籍したバイヨンヌでは先発で活躍。01年にヤマハに加入した。厳しい自己管理はラグビー界でも有名で、05年には史上最年長となる37歳で代表に復帰し、キャップ数を歴代9位の41に伸ばした。「引退は僕にはないと思ってた」。しかし、7人制日本代表の佐藤若手のS.H.が育った

ことを見届け、引退を決めた。

本拠の静岡・ヤマハスタジアムで2日に行われた東芝戦に後半29分から出場した。ヤマハは敗れてシーズンが終了。村田の現役も終わった。引退セレモニーで「人生はまだ半分。新しい人生で白いボードを染めたい」。今後は指導者の道に進むと共に普及にも力を注ぐ。(美土路昭一)

「人生まだ半分」  
指導者の道へ



古巣の東芝相手に現役最後の試合を戦った村田

▼フランスが勝つ。6カ国対抗は3日、英エディンバラで行われ、フランスが27-6でスコットランドに快勝し、3連覇に向け白星を伸ばした。(AP共同)